

北陸新幹線(金沢・敦賀間) 工程・事業費の概況



1. 全体工程及び事業費

- ・土木58工区のうち、軌道等の設備工事に移行している工区は43工区(前月から4工区増)、設定された工期内で進捗【P-3】
- ・各工区の実業費総額の状況は、契約金額は現認可額の範囲内であり、実行目標額は検証委員会の増嵩額を前提とした総額の範囲内【P-5】

2. 敦賀駅【P-6】

- ・前回の報告以降、降雪による一部工程の若干の遅延はあるが、現時点で全体工程におけるクリティカルな工事であるR4高架橋工事は、前月に引き続き、計画工程(検証委員会中間報告における工程)より1.5か月先行(令和3年3月12日現地確認)

3. 加賀トンネル盤ぶくれ対策【P-9】

- ・盤ぶくれ対策の固定ボルト打設の本数は、1,820本(当初予定した1,356本に、2月に追加となった464本を加えた本数)のうち888本完了(令和3年3月12日時点)
- ・全線の調査結果(北工区の未調査区間を含む)より、新規クラック発生が5BLにおいて、クラック幅の拡大が24BLにおいて確認された。
- ・上記区間の水準測量等において明確な隆起傾向は確認されていない。
- ・トンネル施工技術委員会で審議された対応方針に基づき、予防保全の観点で、追加対策を検討した。今回の追加対策に伴う全体工程への影響はない。

4. 京三製作所工場火災に伴う工事完成・開業への影響【P-19】

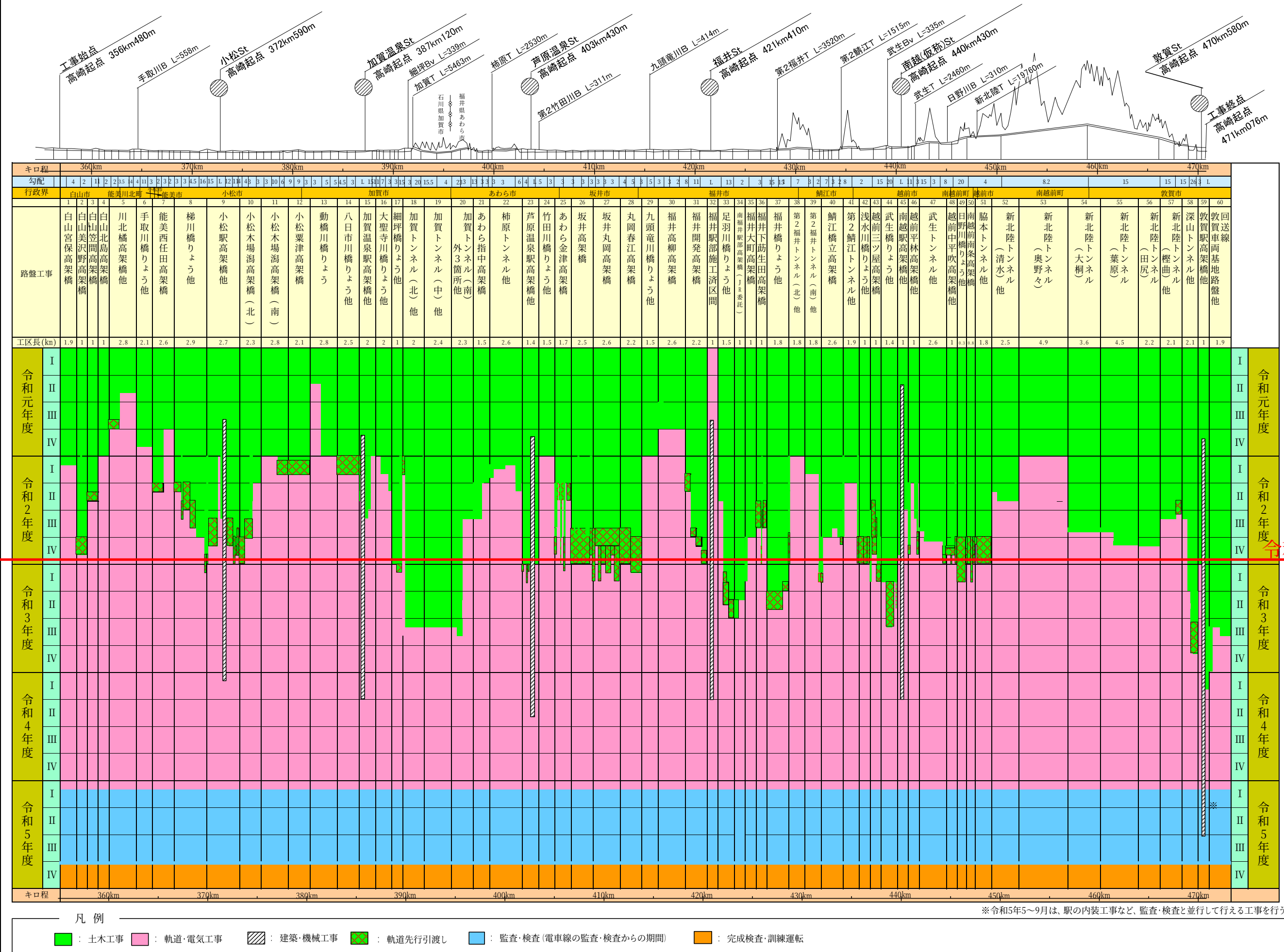
- ・前回の報告では、ATC地上装置用の電源装置が納入期限に間に合わないため仮設電源による対応を検討したが、調整の結果、本設電源による対応が可能となった。
- ・現時点で、開業工程への影響がないことを確認した。

5. その他工区(令和3年3月12日時点)【P-20】

- ・降雪及び新型コロナウイルスの影響なし

【北陸新幹線（金沢・敦賀間）工事工程表(案)】

令和3年3月12日



各工区の工事進捗状況一覧表

(凡例)

土木工事から軌道工事へ引渡しした工区

計画通りもしくは調整済みの工区現在工事中の工区

※ 土木工事において、本体構造物以外の工事は含まない。

令和3年3月12日時点

No	工区名	土木工事		軌道・電気工事			建築・機械工事			監査検査・訓練運転等 ⇒開業			備 考
		完了予定 (R3.2)	完了予定 (R3.3)	開始時期※1	完了見込※2 (R3.2)	完了見込※2 (R3.3)	開始時期	完了見込 (R3.2)	完了見込 (R3.3)	開始予定※3 時期	完了見込 (R3.2)	完了見込 (R3.3)	
1	白山宮保高架橋	R2.4末	R2.4末	R2.5初	R4.4上	R4.4上	—	—	—	R5.5初	R6.3末	R6.3末	
2	白山美沢野高架橋	R2.12末	R2.12末	R3.1初			—	—	—				
3	白山笠間高架橋	R2.7末	R2.7末	R2.8初			—	—	—				
4	白山北島高架橋	R2.3末	R2.3末	R2.4初			—	—	—				
5	川北橋高架橋他	R1.12末	R1.12末	R2.1初			—	—	—				
6	手取川橋りょう他	R2.2末	R2.2末	R2.3初			—	—	—				
7	能美西任田高架橋	R2.6末	R2.6末	R2.7初			—	—	—				
8	梯川橋りょう他	R2.12末	R2.12末	R2.7初			—	—	—				R2.7～R2.12は土木と軌道を同時施工
9	小松駅高架橋他	R3.2末	R3.2末	R2.11初	R4.12上	R4.12上	R2.9末	R5.4末	R5.4末				R2.11～R3.2は土木と軌道を同時施工 R2.10～R3.2は土木と建築を同時施工 R3.2末に軌道引渡し済
10	小松木場潟(北)高架橋	R2.12末	R2.12末	R2.7初			—	—	—				R2.7～R2.12は土木と軌道を同時施工
11	小松木場潟(南)高架橋	R2.4中	R2.4中	R2.4初			—	—	—				R2.4初旬～中旬は土木と軌道を同時施工
12	小松粟津高架橋	R2.4中	R2.4中	R2.5初			—	—	—				
13	動橋川橋りょう他	R2.3末	R2.3末	R1.8初			—	—	—				R1.8～R2.3は土木と軌道を同時施工
14	八日市川橋りょう他	R2.3末	R2.3末	R2.4初			—	—	—				
15	加賀温泉駅高架橋他	R2.10末	R2.10末	R2.4初			R2.10中	R5.4末	R5.4末				R2.4～R2.10は土木と軌道を同時施工 R2.10中旬～末は土木と建築を同時施工
16	大聖寺川橋りょう他	R2.7末	R2.7末	R2.4初	R4.12上	R4.12上	—	—	—				R2.4～R2.7は土木と軌道を同時施工
17	細坪橋りょう他	R3.3末	R3.3末	R3.4初			—	—	—				R3.3末に軌道引渡しの見込み
18	加賀トンネル(北)他	R3.10末	R3.10末	R2.4初			—	—	—				R2.4～R3.11は土木と軌道を同時施工
19	加賀トンネル(中)他	R3.10末	R3.10末	R3.12初			—	—	—				
20	加賀トンネル(南)外3か所他	R3.12中	R3.12中	R2.11初			—	—	—				R2.11～R3.11は土木と軌道を同時施工
21	あわら指中高架橋	R2.10末	R2.10末	R2.7初			—	—	—				R2.7～R2.10は土木と軌道を同時施工
22	柿原トンネル他	R2.7末	R2.7末	R2.5初			—	—	—				R2.5～R2.7は土木と軌道を同時施工
23	芦原温泉駅高架橋他	R3.3末	R3.3末	R2.9初			R2.9初	R5.4末	R5.4末				R2.9～R3.3は土木と軌道を同時施工 R2.3～R3.3は土木と建築を同時施工 R3.3末に軌道引渡しの見込み
24	竹田川橋りょう他	R2.3末	R2.3末	R2.4初	R4.6中	R4.6中	—	—	—				
25	あわら金津高架橋	R2.12末	R2.12末	R2.7初			—	—	—				R2.7～R2.12は土木と軌道を同時施工
26	坂井高架橋	R2.12末	R2.12末	R2.12初			—	—	—				R2.12初旬～末は土木と軌道を同時施工
27	坂井丸岡高架橋	R2.11末	R2.11末	R2.12初			—	—	—				
28	丸岡春江高架橋	R2.12末	R2.12末	R2.12初			—	—	—				R2.12初旬～末は土木と軌道を同時施工
29	九頭竜川橋りょう他	R2.3末	R2.3末	R2.4初			—	—	—				
30	福井高柳高架橋他	R1.12末	R1.12末	R2.1初			—	—	—				
31	福井開発高架橋	R3.2中	R3.2中	R2.6初			—	—	—				R2.6～R3.2中旬は土木と軌道を同時施工 R3.2中旬に軌道引渡し済
	福井駅高架橋他	—	—	R3.3初	R4.7末	R4.7末	R2.4上	R5.4末	R5.4末				
32	足羽川橋りょう他	R3.7末	R3.7末	R2.9初			—	—	—				R2.9～R3.7は土木と軌道を同時施工
	南福井駅部高架橋(JR委託)	R3.9末	R3.9末	R3.8初			—	—	—				R2.8～R3.9は土木と軌道を同時施工
33	福井大町高架橋	R3.5末	R3.5末	R3.1初			—	—	—				R3.1～R3.5は土木と軌道を同時施工

※1:土木工事が一部区間を先行して引渡しを行っている。
※2:完了予定及び完了見込は、電車線の監査・検査に関する工事が完了した時期
※3:電車線の監査・検査からの期間であり、全線を通して実施する予定。

各工区の工事進捗状況一覧表

(凡例)

土木工事から軌道工事へ引渡した工区

計画通りもしくは調整済みの工区現在工事中の工区

※ 土木工事において、本体構造物以外の工事は含まない。

令和3年3月12日時点

No	工区名	土木工事		軌道・電気工事			建築・機械工事			監査検査・訓練運転等 ⇒開業			備 考
		完了予定 (R3.2)	完了予定 (R3.3)	開始時期※1	完了見込※2 (R3.2)	完了見込※2 (R3.3)	開始時期	完了見込 (R3.2)	完了見込 (R3.3)	開始予定※3 時期	完了見込 (R3.2)	完了見込 (R3.3)	
34	福井下蒔生田高架橋	R3.1末	R3.1末	R2.9初	R4.7末	R4.7末	—	—	—	R5.5初	R6.3末	R6.3末	R2.9～R3.1は土木と軌道を同時施工
35	福井橋りょう他	R3.6末	R3.6末	R3.6初			—	—	—				R3.6初～末は土木と軌道を同時施工
36	第2福井トンネル(北) 他	R2.12中	R2.12中	R2.4初			—	—	—				R2.4～R2.12中旬は土木と軌道を同時施工
37	第2福井トンネル(南) 他	R3.5末	R3.5末	R2.6初			—	—	—				R2.6～R3.5は土木と軌道を同時施工
38	鯖江橋立高架橋	R3.4末	R3.4末	R2.9初			—	—	—				R2.9～R3.4は土木と軌道を同時施工
39	第2鯖江トンネル他	R2.12末	R2.12末	R2.7初			—	—	—				R2.7～R2.12は土木と軌道を同時施工
40	浅水川橋りょう他	R2.12末	R2.12末	R3.1初			—	—	—				
41	越前三ツ屋高架橋	R3.5末	R3.5末	R2.9初			—	—	—				R2.9～R3.5は土木と軌道を同時施工 R3.3末に一部区間を軌道引渡しの見込み
42	武生橋りょう他	R3.5末	R3.5末	R3.6初	R4.6末	R4.6末	—	—	—				
43	南越駅高架橋他	R3.2末	R3.2末	R2.10初			R2.10末	R5.4末	R5.4末				R2.10～R3.2は土木と軌道を同時施工 R2.11～R3.2は土木と建築を同時施工 R3.2末に軌道引渡し済
44	越前平林高架橋他	R3.1末	R3.1末	R2.7初			—	—	—				R2.7～R3.1は土木と軌道を同時施工
45	武生トンネル他	R3.2末	R3.2末	R2.12中			—	—	—				R2.12中旬～R3.2は土木と軌道を同時施工 R3.2末に軌道引渡し済
46	越前中平吹高架橋	R3.2上	R3.2上	R3.2初			—	—	—				
47	日野川橋りょう	R2.12末	R2.12末	R3.1初			—	—	—				
48	南越前南条高架橋他	R3.2上	R3.2上	R3.1初			—	—	—				R3.1～R3.2上旬は土木と軌道を同時施工
49	脇本トンネル他	R2.12末	R2.12末	R3.1初			—	—	—				
50	新北陸トンネル(清水) 他	R2.8末	R2.8末	R2.7末	R4.5末	R4.5末	—	—	—				R2.8初旬～末は土木と軌道を同時施工
51	新北陸トンネル(奥野々)	R2.3末	R2.3末	R2.4初			—	—	—				
52	新北陸トンネル(大桐)	R2.12中	R2.12中	R3.1初			—	—	—				
53	新北陸トンネル(葉原)	R3.1末	R3.1末	R3.1初			—	—	—				R3.1初旬～末は土木と軌道を同時施工
54	新北陸トンネル(田尻)	R3.1末	R3.1末	R3.2初			—	—	—				
55	新北陸トンネル(樫曲) 他	R2.10末	R2.10末	R2.9初			R5.4末	R5.4末	—				—
56	深山トンネル他	R3.10中	R3.10中	R2.8初	—	—			—				R2.8～R3.10は土木と軌道を同時施工
57	敦賀駅高架橋	R3.10末	R3.10末	R3.11初	R3.11初	R5.4末			R5.4末				
58	敦賀車両基地路盤他	R4.5末	R4.5末	R3.4初	—	—			—				R3.4～R4.5は土木と軌道を同時施工
		R4.3末	R4.3末	R3.10初	R2.12初	R5.4末	R5.4末	R3.10～R4.3は土木と軌道を同時施工 R2.12～R4.3は土木と建築を同時施工					

土木工事から軌道工事へ引渡した工区 43工区

※1:土木工事が一部区間を先行して引渡しを行っている。
※2:完了予定及び完了見込は、電車線の監査・検査に関する工事が完了した時期
※3:電車線の監査・検査からの期間であり、全線を通して実施する予定。

北陸新幹線 金沢・敦賀間 事業費総額の状況 (R3.2月末時点)

億円

2,500

1か月間の支払・契約実績を反映し、前月からの変更を対比

2,000

1,500

1,000

500

0

(グラフィイメージ)

契約見込減少、差額縮減

一か月の間に契約された額が増加

当月

前月

用地取得

小松鉄道建設所

加賀鉄道建設所

あわら鉄道建設所

福井鉄道建設所

越前鉄道建設所

敦賀鉄道建設所

軌道工事

建築工事

機械工事

電力・電車線・変電工事

信号・通信工事

JR委託工事

工事補償・環境対策

支障移転等

工事附帯

その他

■ 実行目標額

■ 支払済額

■ 契約済額

■ 契約見込額

■ リスク対応額

■ 支払済額 (前月時点)

■ 契約済額 (前月時点)

■ 契約見込額 (前月時点)

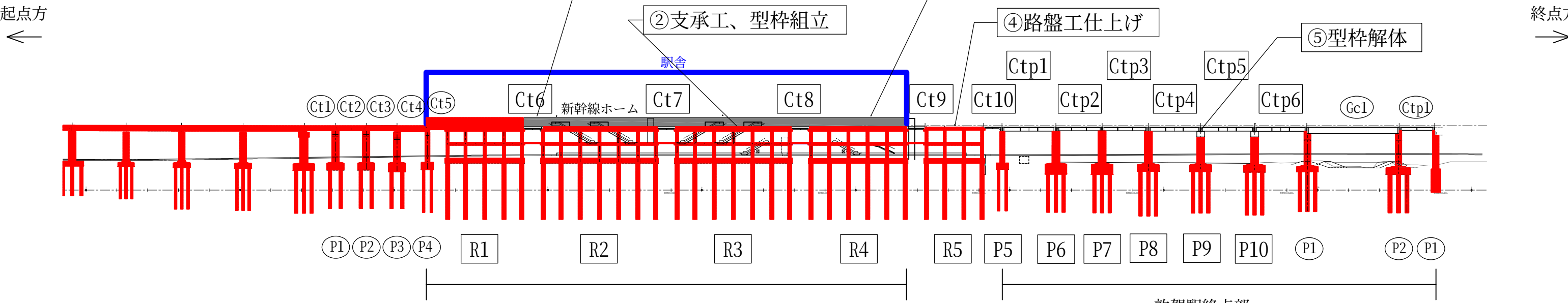
敦賀駅高架橋 進捗状況

凡例

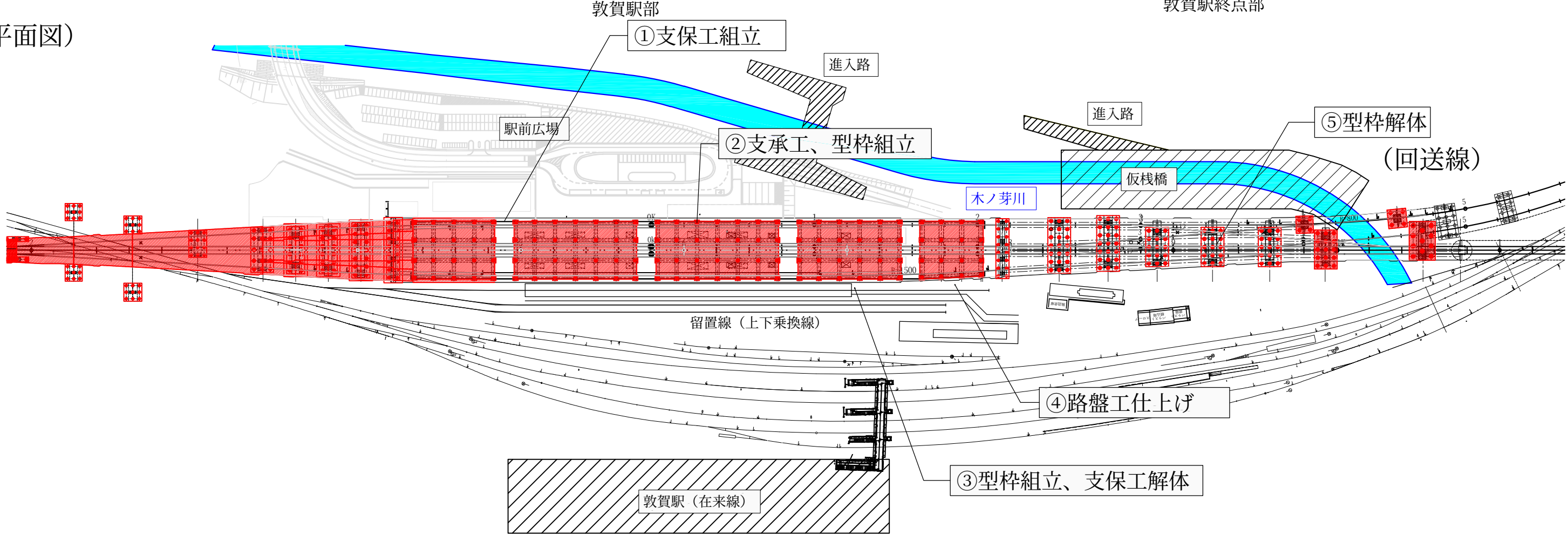
■ 施工済み

呼称
Ct : コンクリートT桁
Ctp: PC桁
P : 橋脚
R : ラーメン高架橋

(縦断図)



(平面図)



J V 竹中土木 執行役員 大阪本店長 以下



8

○前回まで

(1) 対策工の進捗状況

- ・概ね計画どおりに対策が進んでいる。

(2) 経過観察の結果

- ・クラックの調査の結果、一部の箇所において、新規クラックの発生及びクラック幅の拡大を確認。
- ・水準測量及び地中変位計測の結果から、明確な隆起傾向は見受けられなかった。
- ・盤ぶくれ対策工(固定ボルト)の機能は継続して有しており、従前の対策工の判断基準は妥当と判断。

(3) 追加対策

トンネル施工技術委員会における審議内容は以下のとおり。

- ・新たに発生したクラック及びクラック幅拡大箇所については、予防保全の観点より、当初の判断基準を適用して、追加の対策工を実施することとした。
- ・追加対策工の追加に伴い、南工区で当初の5月末から6月末に遅延見込であったが、後続の軌道・電気工事と調整の上、全体工程には支障しない。
- ・追加対策後は監視・観察・計測を継続し、必要に応じて適切な対策を行うこととした。

○今回の報告内容

(1) 対策工の進捗状況

- ・北工区では概ね計画どおり、南工区では計画工程より対策が進んでいる。

(2) 経過観察の結果

- ・全線の調査結果(北工区の未調査区間を含む)より、新規クラック発生が5BLにおいて、クラック幅の拡大が24BLにおいて確認された。
- ・当該区間の水準測量等において、明確な隆起傾向は確認されなかった。

(3) 更なる追加対策

予防保全の観点より、追加の対策工について検討した。今回の追加対策に伴う全体工程への影響はない。

1.加賀トンネル盤ぶくれ追加対策工の進捗状況

令和3年3月12日時点

工区	対策区間 ※対策区間のうち対策工が必要な延長を()内に示す。	施工予定期間											進捗状況		
		■ 当初対策 ■ 追加対策 ▼ 令和3年3月12日時点											削孔完了実績 (計画比) ^{※1}	対策完了実績	全本数
加賀T(北)	392km141.5m ~ 284m(L=142.5m) 392km684m ~ 393km125m(L=441.0m)												704 (△2)	700	860
加賀T(中)	394km456m ~ 519m (L=63.0m)												96	96	96
加賀T(南)	396km509.5m ~ 396km803.5 (L=294.0m) 396km919m ~ 397km013.5m (L=94.5m) 397km045m ~ 213m (L=168.0m)												611 (+237)	92	716
	397km573m ~ 688.5m(L=115.5m)【樋山T】												148 (+50)	0	148
合計												1559 (+285)	888	1,820	

※1: 計画比は、令和3年3月12日時点の削孔における計画と実績との差。

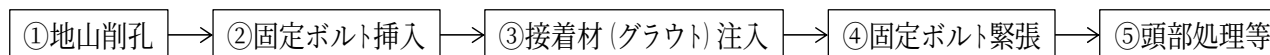
※1:計画比は、令和3年3月12日時点の削孔における計画と実績との差。

※1:対策区間のうち対策工が必要な延長を()内に示す

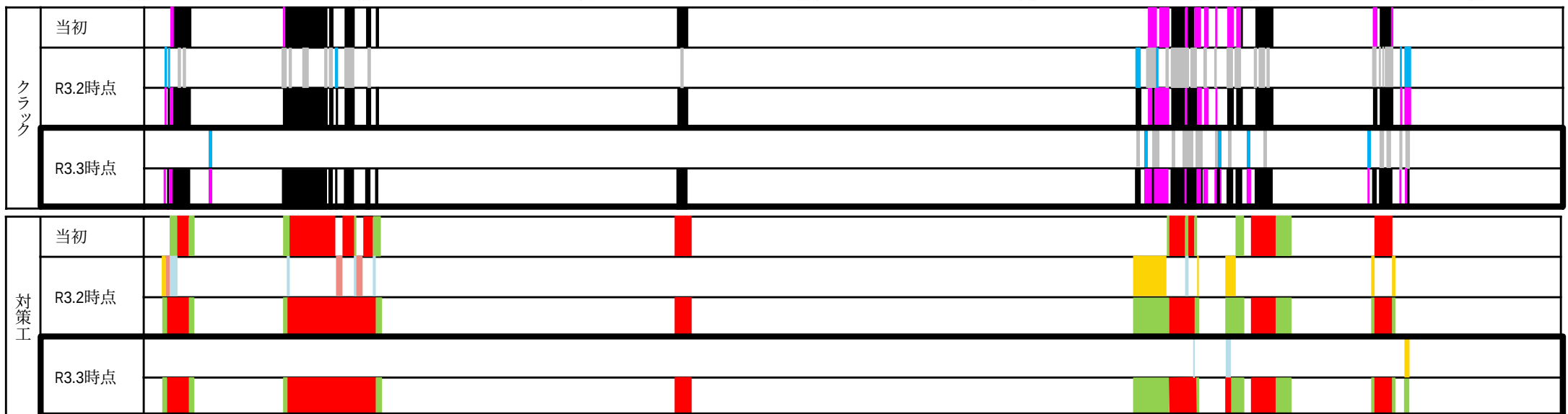
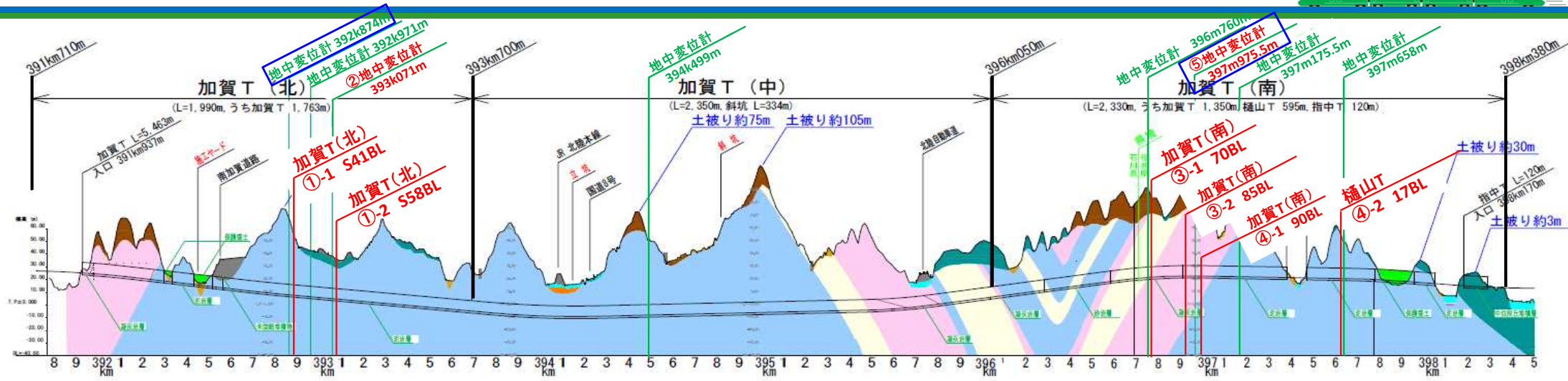
※2:令和3年6月以降は経過観察。その後開業まで計測を継続する予定。

※3:計画比は、令和3年3月12日時点の実績本数と計画工程における同日までの削孔完了本数との差。

(盤ぶくれ対策工の作業手順)



2.加賀トンネルの経過観察結果及び追加対策工



392km290m~690m
 前回未調査区間

凡例		
【クラック】	【対策工】	【地質縦断図】
■:クラック (0.5mm未満)	■:対策工範囲 (12本/BL)	□ 温度計測位置
■:クラック (0.5mm以上)	■:対策工範囲 (16本/BL)	└ クラック幅、水準測量計測位置
■:クラック新規	■:追加対策工範囲 (当初 0本/BL⇒今回12本/BL)	
■:クラック拡大	■:追加対策工範囲 (当初 0本/BL ⇒今回16本/BL)	
	■:追加対策工範囲 (当初12本/BL ⇒今回16本/BL)	

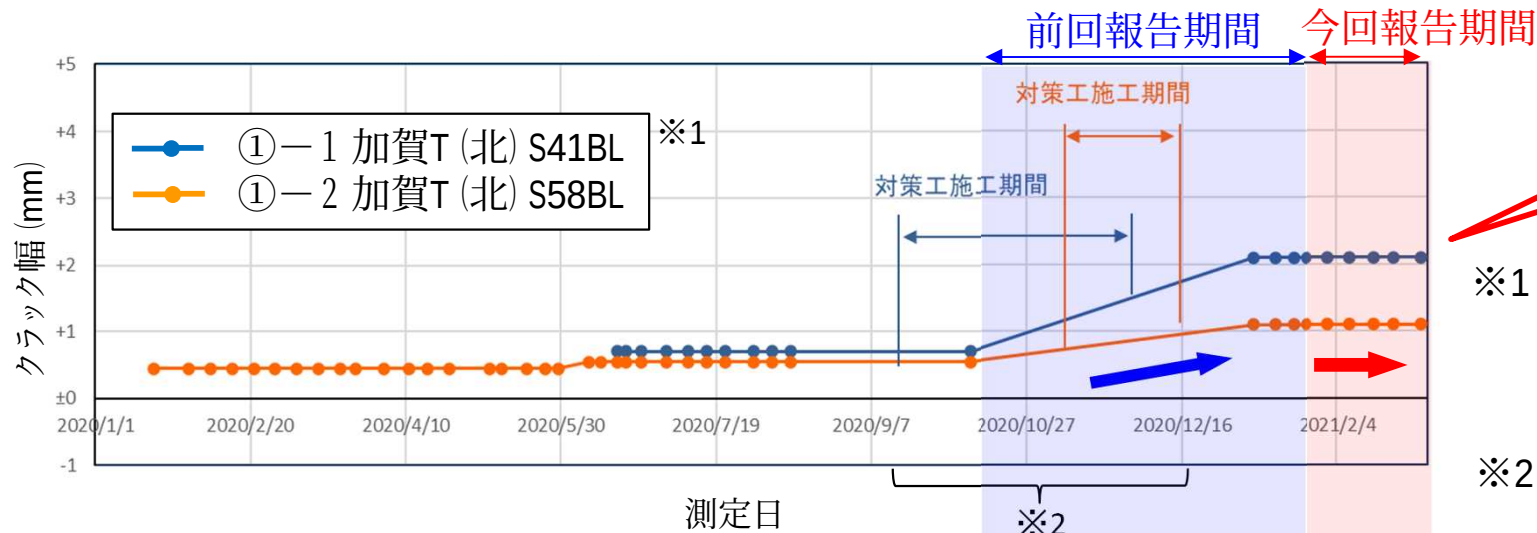
地質凡例			
地質時代	地層名	記号	岩相・層相
第四紀	盛土	bl	礫・砂・シルト・粘土
	沖積層	al	礫・砂・シルト・粘土
	崖堆積物	cl	礫・砂・シルト・粘土
	低位段丘堆積物	tl	礫・砂・シルト・粘土
	中位段丘堆積物	ml	礫・砂・シルト・粘土
新第三紀	高位段丘堆積物	hl	礫・砂・シルト・粘土
	大形砂層	ss	砂岩・泥質砂岩・凝灰質砂岩
	花房凝灰岩層	rlf	凝灰岩・火山礫凝灰岩・砂質凝灰岩
	細粒泥岩層	fm	泥岩・砂質泥岩

2.加賀トンネルの経過観察結果①

加賀T北

クラック幅の拡大、明確な隆起傾向は見受けられない。

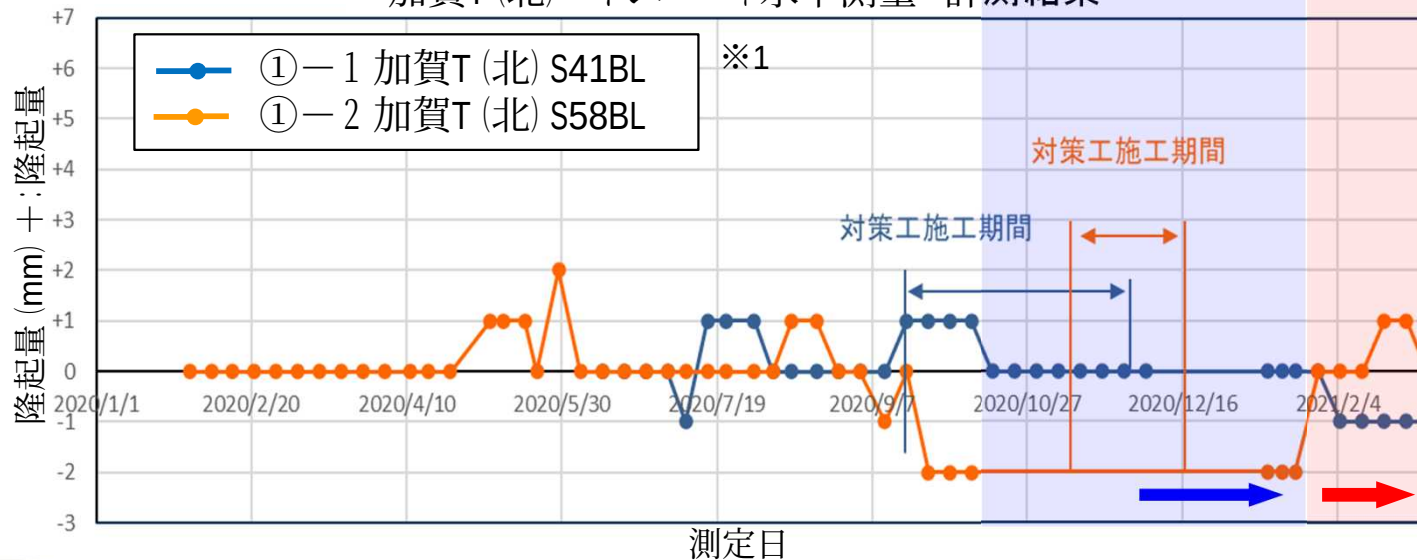
加賀T(北) インバートクラック幅 計測結果



※1 地中変位計測箇所付近でクラック幅の拡大量が大きい箇所の結果を抽出している。

※2 対策工の施工によりクラック幅計測ができなかった期間がある。

加賀T(北) インバート水準測量 計測結果

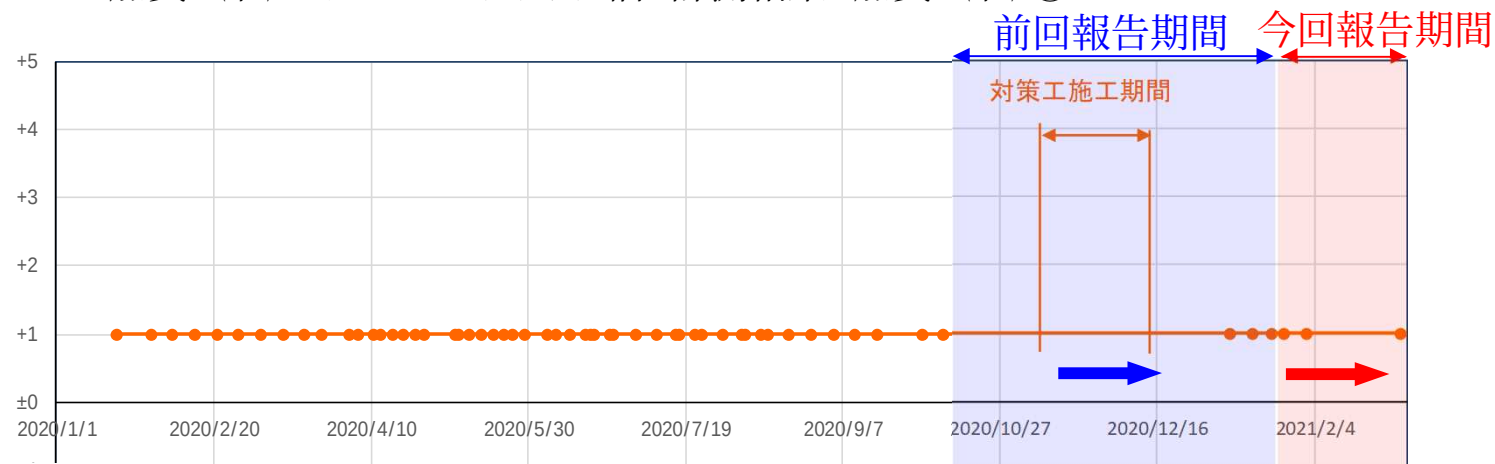


2.加賀トンネルの経過観察結果②

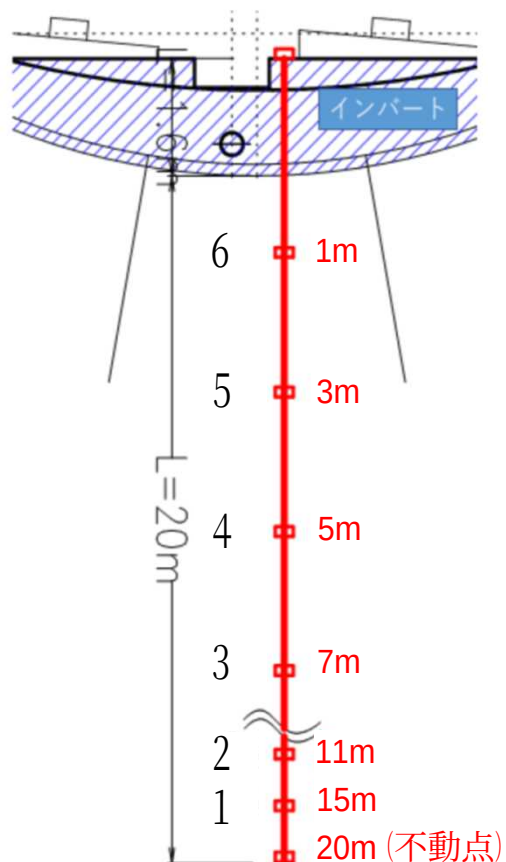
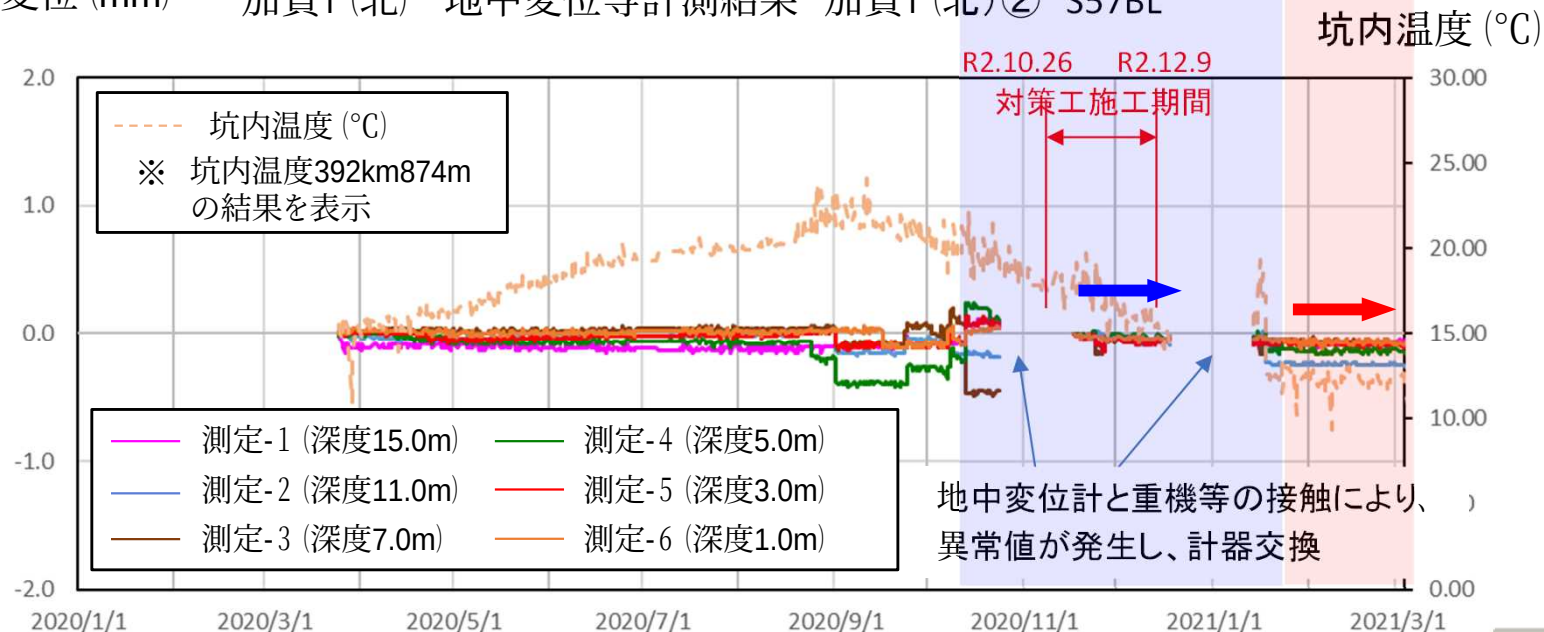
加賀T (北)

S57BLではクラック幅の拡大は確認されていない。

加賀T (北) インバートクラック幅 計測結果 加賀T (北) ② S57BL



相対変位 (mm) 加賀T (北) 地中変位等計測結果 加賀T (北) ② S57BL

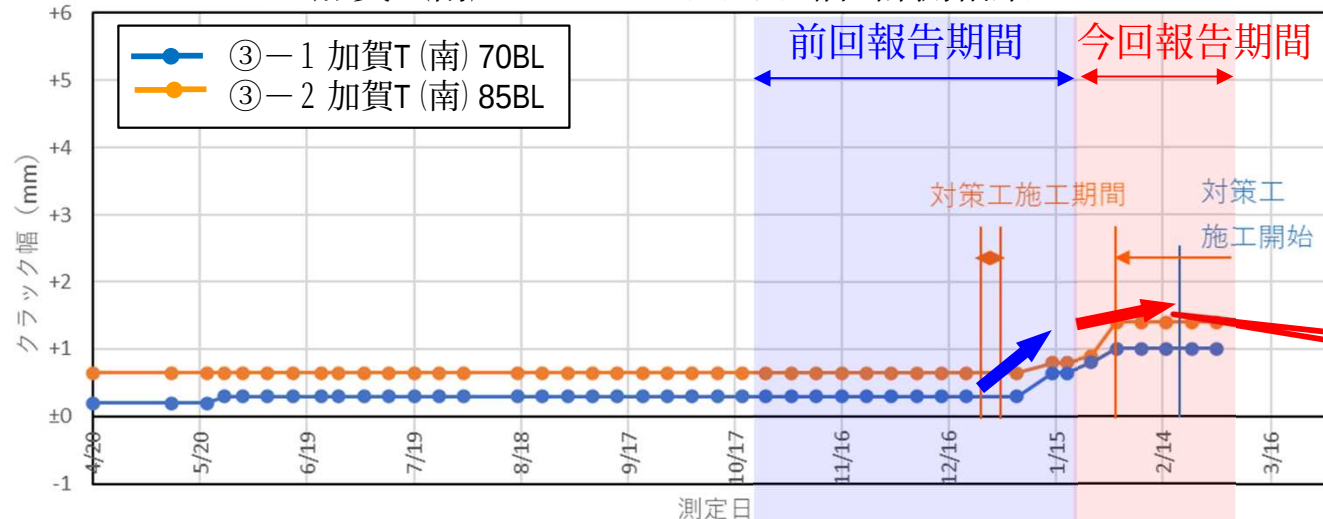


2.加賀トンネルの経過観察結果③

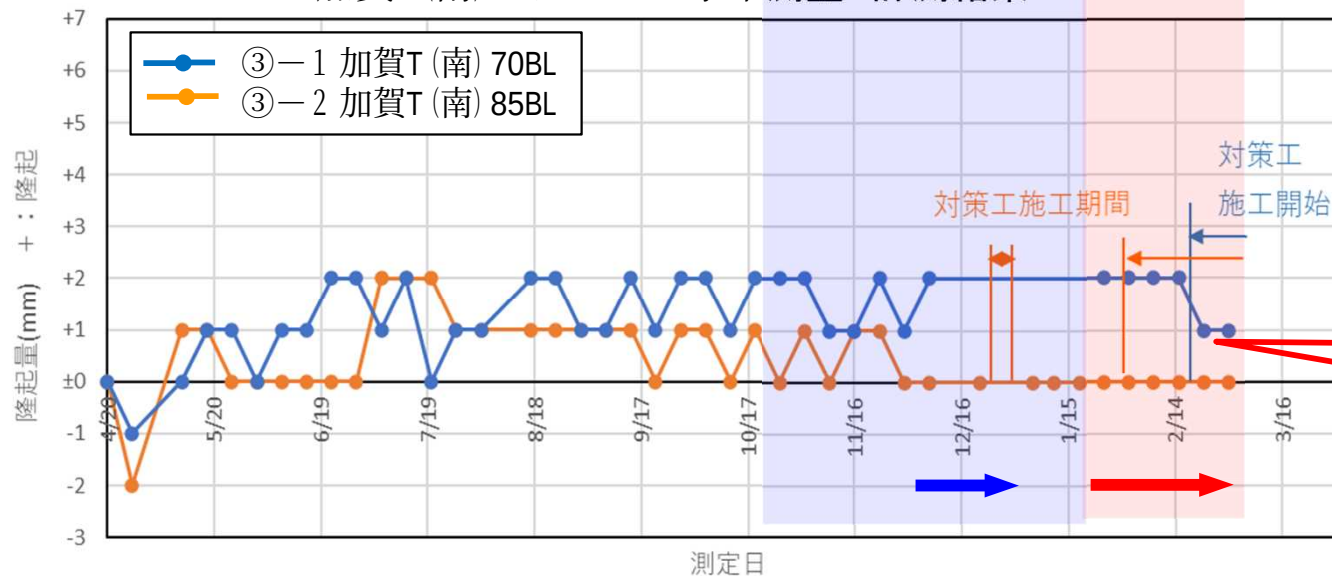
加賀T南

クラック幅の拡大が見られた箇所はあるが、明確な隆起傾向は見受けられない。

加賀T(南) インバートクラック幅 計測結果



加賀T(南) インバート水準測量 計測結果

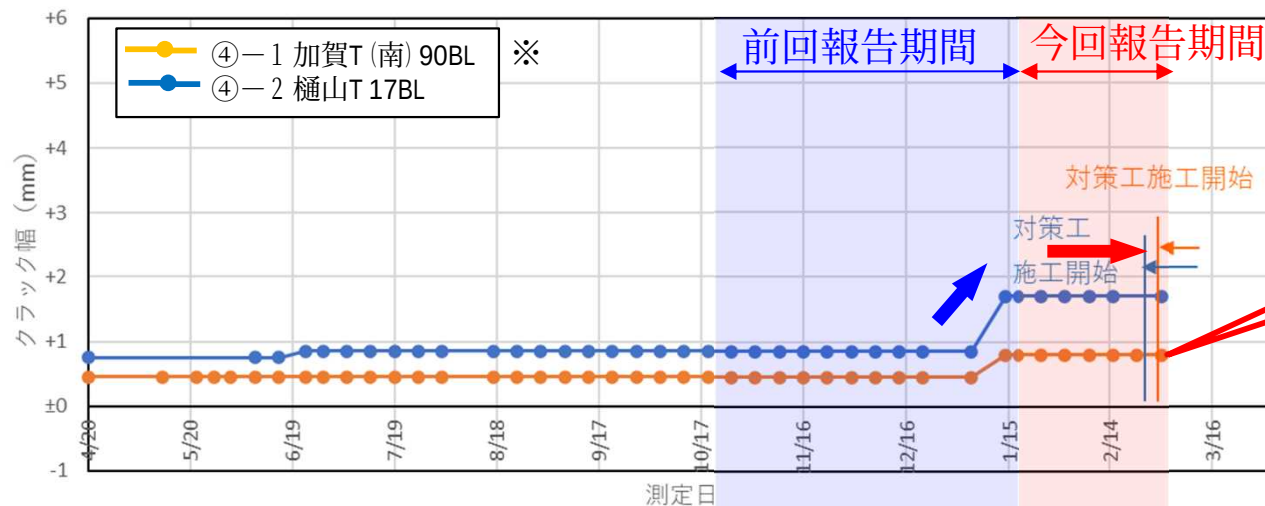


2.加賀トンネルの経過観察結果④

加賀T南

クラック幅の拡大、明確な隆起傾向は見受けられない。

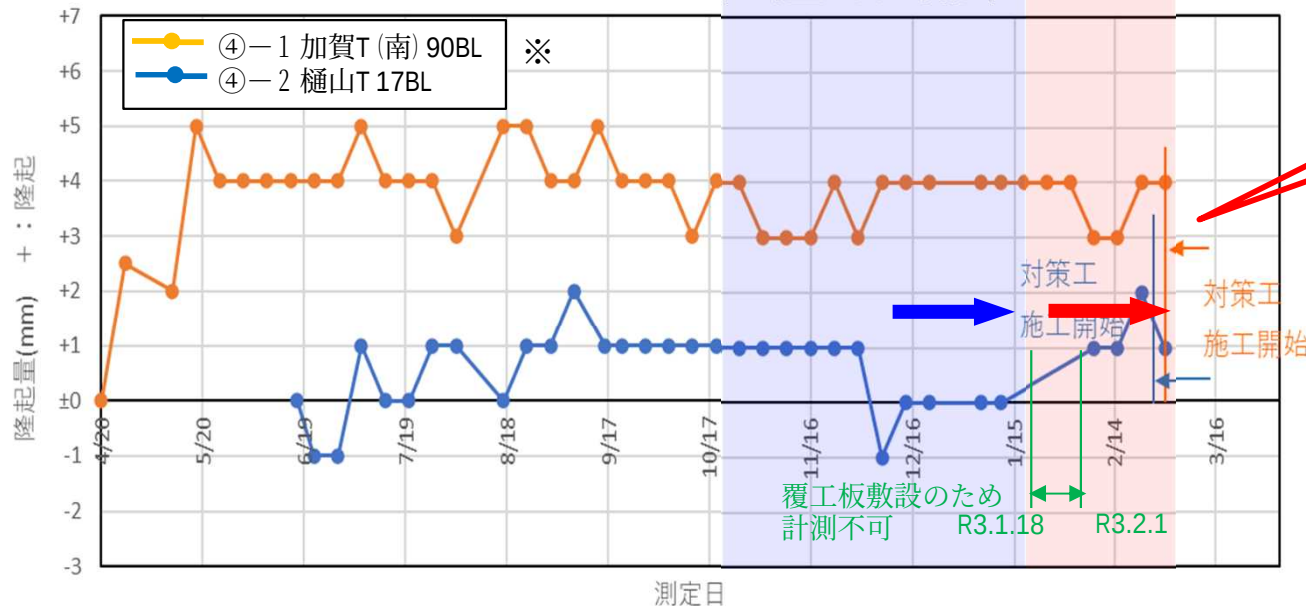
加賀T(南) インバートクラック幅 計測結果



※ 地中変位計測箇所付近でクラック幅の拡大量が大きい箇所の結果を抽出している。

変化なし

加賀T(南) インバート水準測量 計測結果



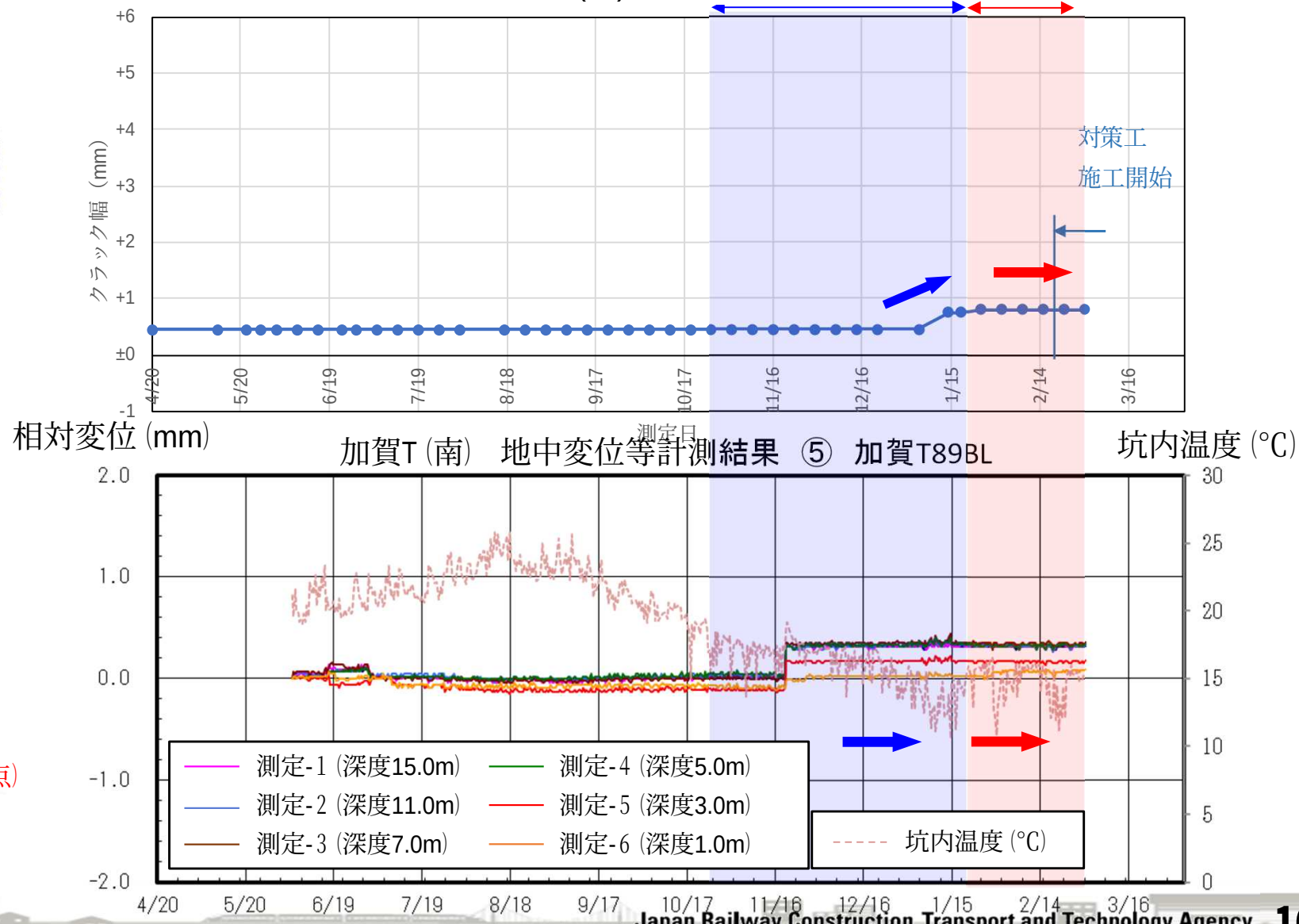
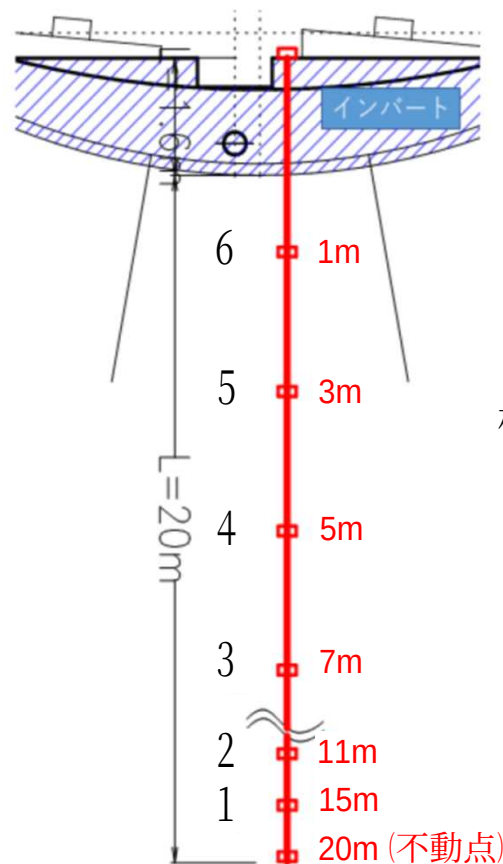
隆起傾向なし

2.加賀トンネルの経過観察結果⑤

加賀T(南)

加賀T89BLではクラック幅の拡大は確認されていない
地中変位計から明確な隆起傾向は見受けられない。

加賀T(南) インバートクラック幅 計測結果 ⑤ 加賀T(南)89BL



3.加賀トンネルの経過観察結果とりまとめ

(1) 水準測量及び地中変位計測の結果

- ・インバートの明確な隆起傾向は見受けられない。

(2) クラック調査結果 (令和3年1月26日～3月12日)

- ・新規クラックが5BL (延長49.5m)で確認した。
- ・クラック幅の拡大が24BL (延長252m)で確認した。このうち、前回報告 (令和3年2月) から更に拡大した箇所が17BL、今回新たに拡大した箇所が7BLであった。

令和3年3月12日時点

工区	工区延長	全ブロック数	クラック発生箇所 (0.5mm未満のクラックを含む)				既存クラックの拡大 ※ () 内は対策工施工済み箇所		
			当初	当初から 前回報告 (R3.2) 間 における追加	今回報告 における 追加	計 (R3.3)	当初	当初から 前回報告 (R3.2) 間 における拡大	今回報告 における 拡大
加賀T (北)	1,763 m	171BL	38BL	3BL	1BL	42BL	—	16BL (16BL)	0BL (0BL)
加賀T (中)	2,350 m	224BL	4BL	0BL	0BL	4BL	—	1BL (1BL)	0BL (0BL)
加賀T (南)	1,945m	187BL	47BL	7BL	4BL	58BL	—	35BL (0BL)	24BL (0BL)
合計	6,058m	582BL	89BL	10BL	5BL	104BL	—	52BL (17BL)	24BL (0BL)

3.加賀トンネルの追加対策工

- ・水準測量等において明確な隆起傾向は確認されていないが、トンネル施工技術委員会で審議された対応方針に基づき、予防保全の観点で、追加対策工を検討した。
- ・新規クラックが発生した5BLについては、全て対策の基準となるクラック幅0.5mm未満であったため、追加対策工は実施しない。
- ・クラック幅の拡大のうち、更に拡大した17BLは、2BLでクラック幅0.5mm未満、15BLで対策工を予定(6BL:12本、9BL:16本/BL)していた。
更なる拡大に伴い、4BL(隣接箇所を含む)で対策本数を変更(12本→16本/BL)する。
- ・クラック幅の拡大のうち、今回新たにクラックが拡大した7BLは、3BL(隣接箇所を含む)で対策(12本/BL)を追加する。
- ・以上より、追加対策工を7BL(52本)追加することとする。

工区	追加対策BL数				追加対策本数 (合 計)
	当初:0 (本/BL) ↓ 今回:12 (本/BL)	当初:0 (本/BL) ↓ 今回:16 (本/BL)	当初:12 (本/BL) ↓ 今回:16 (本/BL)	合計	
加賀T(北)					0本
加賀T(中)					0本
加賀T(南)	3BL	0BL	4BL	7BL	52本
合計	3BL	0BL	4BL	7BL	52本

参考(対策工全数) 1,872本

R3.1.14 (木)

- 信号機器大手の京三製作所の工場と倉庫で大規模な火災が発生

R3.1.27 (水)

- 現場検証完了し、京三製作所職員の立ち入り許可
- 工場・倉庫にて製作・保管中の材料及び製品の被災状況を確認

R3.2.12 (金)

- 京三製作所工場・倉庫にて製作中または検査・納品待ちの製品のうち、北陸新幹線にかかる製品が、焼失もしくは損傷の被害を受けたことが判明。
- ATC地上装置用の電源装置は、納入期日に間に合わない可能性があり、仮設電源による対応を検討することとした。
- 他材料の納品見通し時期は、開業工程への影響がないことを確認した。

R3.3.12 (金)

- ATC地上装置用の電源装置は、納期の前倒し及びCOSMOSネットワーク回線試験の実施時期の調整により、仮設電源ではなく本設電源による対応が可能となった。
- 他の材料の状況について、納品時期の遅延はないことを確認した。
- 現時点で開業工程への影響はないことを確認した。

令和2年12月以降に発現したリスク管理表

	リスク	発現しているリスク	対応状況
工事	気象変化、自然災害、他地域における自然災害への対応	R2.12.13（日）～17(木)：[敦賀駅高架橋] 降雪に伴い、R2.12.17のコンクリート打設を中止。	出荷事業者と調整のうえ 12/22 に打設済みであり、全体工程及び事業費への影響なし。
		R3.1.7（木）～10（日）：[全般] 強度の降雪に伴い、62 工区/103 工区で作業中止（複数工区で最大9日間）。	各工区における工程調整をして、全体工程及び事業費への影響なし。
		R3.1.8（金）：[敦賀駅高架橋] 降雪に伴い、R3.1.8のコンクリート打設を中止。	出荷事業者と調整のうえ 1/15 に打設完了。全体工程及び事業費への影響なし。
		R3.1.29（金）：[敦賀車両基地路盤] 降雪に伴い、R3.1.29のコンクリート打設を中止	出荷事業者と調整のうえ 2/5 に打設完了。全体工程及び事業費への影響なし。
	予期せぬ地質条件変化への対応	R3.1.14（木）・15（金）：加賀トンネル 北・南工区において新規クラックの発生及びクラックの拡大を確認	・北・南工区においてクラックの進展を確認したこと、中工区は調査中であることを鉄道局に報告（1/19） ・中工区は調査の結果、新規クラックがない。ただし、北・中工区で工事を優先させた結果、調査未了箇所（計 700m）があり、2月中旬に再調査予定であることを鉄道局に報告（1/27） ・中工区の調査未了箇所（300m）は 2/6（土）に調査を行い、既存クラック 1 か所でクラック幅の拡大が確認された一方、新規クラックの発生はなかったことを鉄道局に報告（2/8） ・調査結果を踏まえ、盤ぶくれ追加対策の範囲及び対策等を整理 ・トンネル施工技術委員会（2/9）の審議を踏まえて、固定ボルトを 4 6 4 本追加。これに伴い、資機材等の手配中。 ・北工区は、5月末までに完了できる見通し。 ・南工区のうち石川県内区間は、5月末までに完了できる見通し。 福井県内区間は、当初の5月末から6月末に遅延見込みであるが、開業設備工事の工程調整を行うことで、全体工程に影響はない。 ・追加対策工については、一定額の費用を計上済（203 億）。当初および今回の追加対策にかかる費用で約 71 億程度であり、事業費への影響は無い。 ・令和3年3月における全線の調査結果（北工区の未調査区間を含む）より、新規クラック発生が 5BL において、クラック幅の拡大が 24BL において確認されたが、水準測量等の明確な隆起傾向は確認されていない。 トンネル施工技術委員会で審議された対応方針に基づき、予防保全の観点で、追加対策を検討した。今回の追加対策に伴う全体工程への影響はない。
		—	—
	物価上昇への対応	—	—

	リスク	発生しているリスク	対応状況
工 事	作業員・資機材不足への対応	R3.1.14（木）：信号機器大手の京三製作所の工場と倉庫で大規模火災が発生	・ R3.2.10 京三製作所より火災による被害状況と納期見直しについて報告。その結果を受けて、機構にて、完成時期に影響を与えないことを確認。全体工程及び事業費への影響なし。 ・ 納入期限に間に合わない可能性があった ATC 地上装置用の電源装置については、出荷時期及び試験の実施時期の調整により、仮設電源ではなく本設電源による対応が可能となった。 - 他の材料の状況について、納品時期の遅延なし。 ・ 引き続き、定期的に製作状況・納品の確認を行っていく。
	新型コロナへの対応	R3.1.8（金）・1.10（日）：[深山トンネル] 受注者の協力会社社員 2 名が新型コロナウイルスに感染	R3.1.25（月）に工事再開 作業が約 2 週間遅延したが、当該工区のクリティカル箇所でないため、全体工程及び事業費への影響なし
		R3.1.8（金）：[第 2 鯖江トンネル] 受注者の協力会社社員 1 名が新型コロナウイルスに感染	本線工事の従事者ではなく、全体工程及び事業費への影響なし
		R3.2.10（水）：[あわら金津高架橋] 受注者の協力会社社員 1 名が新型コロナウイルスに感染	本線工事の従事者ではなく、全体工程及び事業費への影響なし
		R3.2.13（土）：[南越軌道敷設] 受注者の協力会社社員 1 名が新型コロナウイルスに感染	後続作業（CA モルタル）との工程調整の結果、全体工程及び事業費への影響なし
	法令変更への対応	—	—
	関係機関への対応	—	—
	施工計画変更への対応	—	—
	労働災害に関する対応	—	—
	公衆災害に関する対応	—	—
	トラブルに関する対応	—	—
	その他リスク要因となり得る懸念事項	—	—